

財団だより

第162号

2020.6

# 多摩川



アマサギ



二羽ともアマサギ

## アマサギ

写真・文 大野 章(川崎市多摩区在住)

多摩川では、白鷺のコサギとダイサギは一年中見ることができる。これらと見間違えられそうなのが、夏鳥のアマサギ、チュウサギで、河川に来ることは少ない鳥であるが、稀に多摩川にも現れる。

アマサギは夏の朱色の飾り羽が美しく、コサギより小さいが目立つ存在である。只、冬羽や幼鳥には朱色の羽がなく、アマサギと気付かれぬこともある。(左写真参照)

数羽でいることが多く、コサギなどに紛れて中州の草むらで、虫などを食べていたりする。年間に数日しかお目にかかれぬ珍客で、出会えた時はカメラを向けるのが大変嬉しい一時となる。

\*参考：漢字は、能楽にも登場する「猩猩(しょうじょう)」に色が似ているので「猩猩鷺」や、銚色から「銚鷺」の字が充てられている。

### 目次

- |                           |                      |
|---------------------------|----------------------|
| ■ 巻頭言 ..... 2             | ■ インフォメ/多摩川 ..... 9  |
| ■ 多摩川散歩 ..... 4           | ■ 財団からのお知らせ ..... 14 |
| ■ 多摩川に学ぶ ..... 5          | ■ 読者コーナー ..... 18    |
| ■ 連載7 平間の渡し下流の攻防 ..... 6  | ■ 事務局より ..... 19     |
| ■ 多摩川緊急治水対策プロジェクト ..... 8 |                      |

## 玉川上水系保全再生への道



東急財団 環境事業部門 選考委員長  
 公益財団法人日本自然保護協会 顧問  
 千葉大学 名誉教授

**田畑 貞 壽**

「当財団で環境部門の選考委員長を務めております、田畑貞壽です。  
 私が所属しております団体の主催で、標記のシンポジウムが  
 開催されましたので、その概要をご報告いたします。」

2020年（令和2年）1月18日（土）に東京しごとセンター地下2階の講堂で200人余の参加により開催された。玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会の谷下雅義・辻野五郎丸両氏の司会により、進められた。

- ① 初めに国土交通大臣、東京都知事、武蔵野市長、小平市長、東大和市長などのメッセージの紹介があった。さらに事務局の細見寛氏よりこれまでのシンポジウムの経緯と第4回で総括したいこと、玉川上水・分水網・外濠・日本橋川の保全再生のつながりおよび、市民団体と行政、外濠に関係する関連大学等との関係について報告があった。
- ② 次に河村明氏による「武蔵野台地の水環境」と題した乾燥する武蔵野台地の地形地質と水理学的視点からの基調講演があった。
- ③ 続いて昨年実施した市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構100選、「我が町の玉川上水（上流、中流、下流）、外濠、日本橋川、分水（三田用水）」について6人からの報告があった。
- ④ これについて陣内秀信氏よりの講評が行われた。
- ⑤ 谷下雅義氏の司会により「玉川上水系保全再生への道」と題して今後の研究や展開について大学院学生、教員、玉川上水ネット・日本橋水辺再生研究会代表者による意見交換が行われた。
- ⑥ さらに、代表である山田正氏によるシンポジウム全体の講評が行われた。
- ⑦ この講評を受けた第4回シンポジウム提言
  - ・都心水辺環境再生のための浄化対策、オリンピックのレガシー
  - ・玉川上水系の関連遺構の調査、水利や水文化の再認識
  - ・玉川上水系の関連団体との交流、水と緑による連携の必要性等

を骨子とする案が4項目ほどにまとめられ提示された。



基調講演 河村 明（首都大学東京大学院教授）



意見交換質疑（応答山田正中央大学教授）

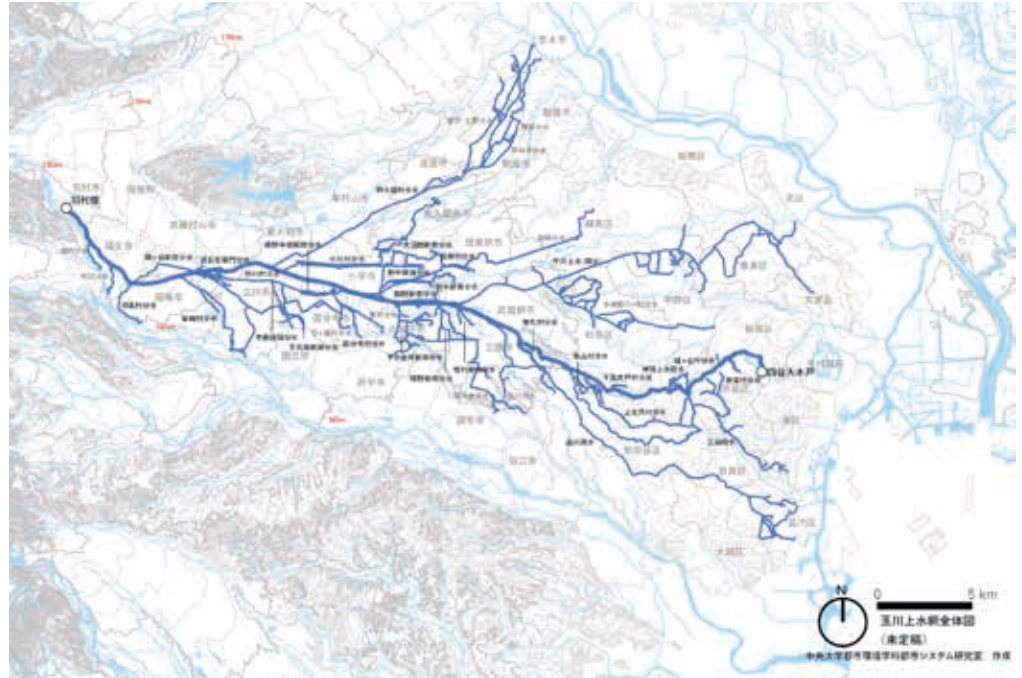


閉会挨拶 田畑 貞壽（千葉大学名誉教授）

最後にこれまでのシンポジウムのまとめとして、玉川上水・分水網保全再生連絡会の田畑貞壽により閉会のあいさつを兼ね、「今後の美しい水のながれと江戸から今日まで続く東京圏の水と緑、自然環境保全の街づくり手法の改善が具体化することが求められる」とのコメントがあった。

東京都は昨年暮に「未来の東京」戦略ビジョンを発表した。この中には第1回から3回にわたって提言されてきた玉川上水・分水網の水循環システムの再生等についても触れられており、玉川上水や外濠、日本橋川等へ河川水を水を流すことの可能性や外濠の浄化への道筋も具体化されつつある。

一方では、住民運動による玉川上水の保全管理についての活動は未来遺産運動として登録され、6年が経過した。その一つである今回の玉川上水分水網関連遺構100選の結果は、玉川上水・分水の関連遺構の史跡指定や利活用への関心も一層高まってきたといえよう。

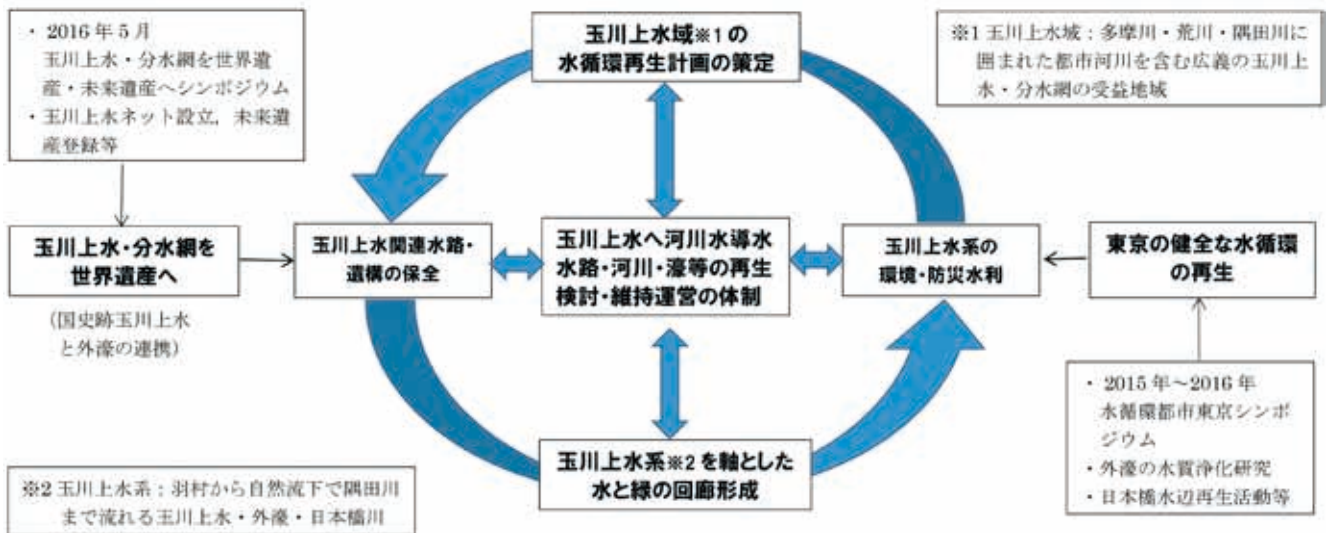


玉川上水分水網図（明治中期）

玉川上水域の水循環再生から世界に誇る自然と水の回廊づくりは、東京圏のグリーンインフラの追求にもつながる内容であり、そして東京圏の水と緑の世界遺産—玉川上水の保全再生の方向を「地域コミュニティ」の住民の皆さんや、関係する基礎自治体、都、国によって計画的に進める時期も近いうちに来るかと思えます。関係した団体の皆さんの熱意に改めて敬意を表します。

下記資料は第1回～第3回シンポジウムと第4回シンポジウムとの関係および、今後の具体的に進めるべき方向性を示したものです。

第4回シンポジウム提言（案）参考図



## 多摩川散歩

### 多摩川源流大学から



多摩川源流大学事務局  
NPO法人多摩源流こすげ事務局  
東京農業大学非常勤講師

石坂真悟

#### 皆さま、お元気でしょうか。

先日、政府から緊急事態宣言が発令され、いよいよ感染症対策により気をつかう段階に入っている状況下で筆をとっております。

しかし、世間が不安や混乱している時でも、季節は移り変わり小菅村では桜、ミツバツツジが満開となり春爛漫というのがふさわしい景色になっています。このような状況下でも、地方に住む著者としては、都内や多くの人が集まる場合は、テレビ会議の実施、各スタッフが在宅ワーク、在宅に疲れたら農作業などで体を動かすなど、田舎のメリットを最大限活かした仕事ができています。

#### 源流体験の下見に行ってきました！

昨年台風19号の影響で、大きく河川環境が変わっていることが予想されるため、スタッフ数名で新緑の源流へ下見に行ってきました。

河川の状況としては、一番初めの川へのアプローチ部分、ロープで岩を横切る箇所（最大の難所!）、最後に飛び込む「瞳淵」など、多少の変化はあったものの、大きなコース変更を行うことなく源流体験を実施できそうな状況でした。今年も多くの方を源流の大自然、透き通った水にご案内いたします。



最大の難所「岩のへつり」



ゴール時点の「瞳淵」

#### 源流体験に新装備！

この度、長年使っていた源流体験用の水色のヘルメットですが、経年劣化が激しくなっていたため新しく買い換えました。

旧ヘルメットには、子どもたちを源流の自然から守り、そして子どもたちの冒険の証として多くキズが付いていました。一つ一つのキズに子どもたちの源流への挑戦と自然を愛する気持ちが刻まれています。これからも「自然と親しみ、自然とふれ合う中で豊かな心と生きる力を育む」源流体験をお届けしたいと思います。



新しいヘルメット

#### ■「多摩川源流研究所 15年の歩み」発行

平成13年（2001年）4月に小菅村によって設立した「多摩川源流研究所」の15年にわたる数々の事業をまとめた冊子が、この度完成しました。

源流研究所の誕生から、中村所長の携わった源流絵図全編に関する解説、源流の森を守る「森林再生ボランティア」、研究所事業に携わった多くの関係者の皆様から寄稿など、小菅村が源流にこだわった村づくりの経過がまとめられています。

発行部数が限られているため、NPOこすげHPでご覧できるようにしていきますので、よろしくお祈りいたします。



「15年間の歩み」

# 多摩川に学ぶ

## 風の通り道



NPO 法人 砧・多摩川あそび村

理事長 上原 幸子

### 風がもたらす安心感

日常生活が激変する状況から、密閉・密集・密接の三密を避けられる空間を求めて、人と人との距離を保てる多摩川河川敷を訪れる人がいます。風の吹き抜ける多摩川の広々とした自然空間では、誰もが思わず深呼吸をしたくなります。多摩川が都会の中でどのくらい貴重な空間なのかを、改めて再認識させてくれます。

不要不急の外出を控えながらも、子どもにとって遊びは生きることそのものです。家庭内でのストレスの溜まる環境も察するに余りある中、子どもが走り回って遊べる最後の砦のように感じます。遊び場として子どもを集める活動は自粛し閉園していても、原っぱで過ごす姿が見られます。河川敷は風通しのいいオープンスペースであることから、必要最低限の時間、自由に遊びに来れる子どもの居場所でありたいと考えています。

子どもだけでなく、多摩川ではジョギングやスポーツなど体を動かすことはもちろん、年間を通して凧揚げや紙飛行機など、この空間を活かして楽しむ人もいます。ひとところに集まらず、結果的にソーシャルディスタンスにつながる活動が、河川敷では日常の光景なのではないかと思えてきます。



子どもが走り回って遊べる河川敷

### 季節によって塗り替えられる風景

台風の後、緑豊かだったグラウンドは砂漠さながらでしたが、洪水の影響が心配されたカントウタンポポも顔を出し、この春もセイヨウカラシナの黄色やハマダイコンの白い花が一面に広がっていました。また、昨年の初夏に広範囲を紫色に染めたナヨクサフジは、今年ももう咲き始めています。一年をとおして多摩川で出会える生きものである野草は、季節に伴い変化する色が目を楽しませてくれる自然のパレットのようです。



春はセイヨウカラシナで黄色に染まる



初夏に一面を紫色に染めるナヨクサフジ

そして今年も、夏から秋にかけてはお約束のように厄介者のオオブタクサやアレチウリが繁茂し、一帯が緑色で覆われることと思います。例年、この対策外来植物の駆除と草刈りを、6月から11月までみんなで行って来ました。特定外来生物は持ち出すことが禁止されているため、なるべく実ができる前に根ごと抜き、一箇所に集積して枯らし広がるのを防ぐのです。ですが、今年は集まったの作業は行えそうもありません。こういう機会に多摩川の豊かな自然に楽しみを見出すとともに、訪れた際に個々に協力してくださる方が増えれば嬉しく思います。



群生するアレチウリ (左) とオオブタクサ (右)



アレチウリの葉とツル



トゲがある実はゴム手袋で駆除

もうすぐエアコンの効いた屋内でのインドア生活が進む季節になります。ですが、多摩川の数少ない木陰と橋脚の下は、真夏のオアシスです。強い日差しを避けて風の通り道を体感するだけで、こんなにも気持ちのいいものかと感動します。

今年は川のせせらぎでのガサガサや釣りなどのイベントはまだ予定が見えませんが、川に入る際は安全のためにライフジャケットの着用を是非お願いします。

当面はオンラインなどを上手く活用しながら、この難局を乗り越えていければと思います。



多摩川改修 100 年

## 7. 平間の渡し下流の攻防

国土交通省国土技術政策総合研究所  
主任指導官、博士(工学) 和田 一範

道路改良の名目で強引な堤防建設を進めて、左右岸築堤争いの大騒動となった有吉堤(1,200間、約2,180m)の建設は、平間の渡し上流の1,050間(約1,910m)については、そもそも無堤の地区であり、明治29年(1896年)制定の旧河川法の手続きにあたって、それ以前に大連続堤を整備してきた東京府側が、これを了解しなかったために、内務省の河川堤防としての認可が下りなかったものです。大騒動の後の内務省の最終調停は、東京側

の堤防よりも三尺(約90cm)低くすることで、神奈川県側の新堤建設を認めるものでした。しかし、これはもともと神奈川県が設計をしていた堤防自体が、そのような高さを抑えたものであり、神奈川県側の落としどころを抑えた対応に、いわば乗ったかたちとなっています。大騒動の幕引きとしては、大変良い大岡裁定になっていると言えます。

一方で、平間の渡し下流には、そもそも150間(約270m)の大きな突堤が、東京側に突き出すように設置されていて、長年有効に機能していました。この突堤は、背後にある橋樹郡道兼用の伊勢浦堤と食い違うように配され、この二つをあわせて霞堤としても機能していました。霞堤は、すき間の空いた堤防によって、大きな洪水の際にはこのすき間から洪水がゆったりとあふれ出ること、周辺の堤防や対岸の堤防の大破堤を防ぐものです。

この突堤は、神奈川県側、御幸村のこの地先には大変有効であった一方で、東京府側矢口村には、洪水流を対岸に向ける脅威でした。有吉堤の騒動の当初、神奈川県側は、この突堤と伊勢浦堤をつなげて、さらに上流側無堤地区の新堤につなげるという工事を始めたので、対岸の住民はたまりません。結局、この突堤の扱いは、内務省、東京府、神奈川県三者調停の中で、最後までもめる最大の懸案事項となりました。調停の結果この区間は、「突堤の撤去」「集落側に寄せた新堤の建設」「突堤と伊勢浦堤をむすぶ、霞堤締切り工事の原状復旧」の3つが課せられました。突堤を集落側に寄せて作り替えるとともに、霞堤としての開口部は残すというものです。

しかし、この調停は、神奈川県側の住民に大いなる禍根を残します。有吉堤の騒動は、



図1 霞堤構造の、平間の渡し下流150間の突堤と伊勢浦堤(明治39年測図、大日本帝国陸地測量部)

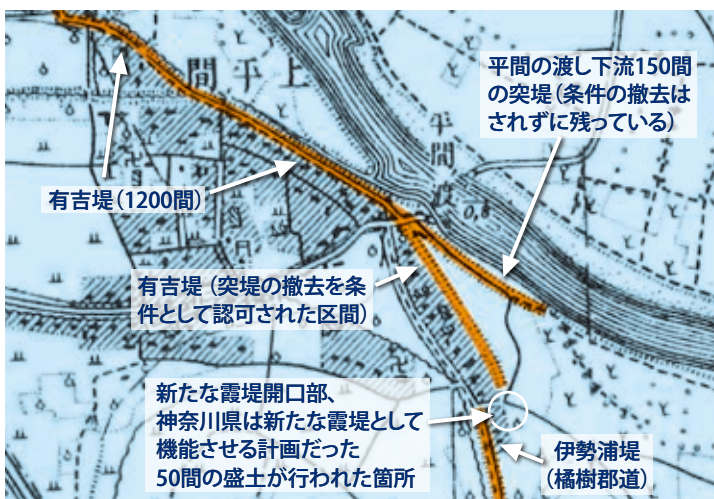


図2 150間の突堤の撤去を条件に認可された有吉堤(全体1200間)(大正6年測図、大日本帝国陸地測量部)

大正5年(1916年)12月18日の御幸堤防落成式において、有吉堤の名称が付けられハッピーエンドの幕となりますが、ことはこれで一件落着ではありませんでした。

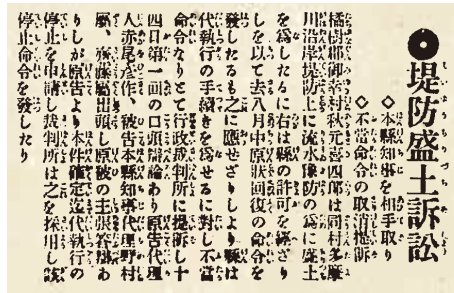
大正6年(1917年)4月29日～5月6日、御幸村秋元喜四郎氏ほか地元住民は、伊勢浦堤と有吉堤最下流端の間(霞堤の開口部)50間(約91m)を、水防用の準備土と称して盛土をします。

これに対し8月11日、県知事有吉忠一名で五十間盛土について原型回復の命。8月28日付で戒告書が出ます。

これによって8月23日、秋元氏は、横浜区裁判所に出頭、陳述。さらに9月3日、行政裁判所に違法処分取消請求および違法処分執行停止命令の申請をします。また9月4日、横浜区裁判所検事局宛て上申書および事件中止願の提出をします。

9月13日神奈川県は、行政裁判所に違法処分取消請求の訴えに対する答弁書提出。

これら一連のやりとりの結果9月14日、行政



行政裁判の新聞報道  
大正6年9月16日付横浜貿易新報

裁判所より、県の原型回復命令については、本件判決に至るまでその執行を停止するとの決定書が出ました。

執行停止の決定から約2週間が過ぎて、10月1日、また暴れ多摩川が氾濫をします。しかしこの洪水において、前年に完成したばかりの有吉堤が有効に氾濫を防いだほか、秋元氏らが積み上げた五十間盛土もしっかり機能したのです。ただしこの五十間盛土が神奈川県側に有効に機能したことは、対岸東京府側には霞堤の機能が損なわれたことにほかならず、ここに新たな動きが出て来ます。

10月4日、東京府は、五十間盛土について、除去しなければ対岸の堤防その他に危害ありとして、井上知事名で、行政裁判所に従参加申請書を提出します。ということで、有吉堤騒動に於いて

対立をしてきた神奈川県と東京府が、今度は手を結んで、地元御幸村と対峙をすることになってしまいました。

一方で東京府のこの動きに対して、橘樹郡の住民レベルでの動きが新たに出て来ます。五十間盛土の存置について、御幸村、日吉村、町田村、住吉村、旭村、大綱村の各村長連名による、行政裁判所に対する上申書が上がるのです。あわせて、各村では、御幸村に対する寄付金の支払いについての動きが進んでいきます。寄付金の概算額は、まず前年度に建設した有吉堤全体の事業費(壹萬五千拾貳円貳銭七厘(15,012円2銭7厘))を算出し、そのうち部落負担分の不足額に、この五十間盛土にかかる事業費と、さらに行政裁判等にかかった費用を足して、これを御幸村に支払おうという算段です。

有吉堤の騒動では、アミガサ事件(大正3年(1914年)9月16日)の発生以来、御幸村無堤地区への堤防建設に向けて連携をとってきた橘樹郡の各村は、道路改良による盛土の路線に方針を変えたとともに、地元御幸村と、日吉村、町田村ほかが大分裂をしてしまいました。その後、有吉知事の就任とともに、原案の無堤地区への堤防建設路線に走り出した際には、御幸村単独でこれを進めてきたものですが、この御幸村への寄付の動きは、分裂した日吉村、町田村ほかの各村から、この五十間盛土の清算とあわせて、有吉堤の恩恵を受けることに対する清算を行おうというものです。

ここに多摩川の治水にかかる、橘樹郡の連携の復活の動きが見て取れます。

これら地元の動きと並行して、多摩川の治水問題はよいよ内務省直轄改修に向けて動いてゆきます。直轄事業化の動きが明確に進んでゆく中で、御幸村への寄付についての事務手続きは進められてゆきました。

平間の渡し下流の攻防の一大顛末の結果として残ったのは、御幸村、日吉村、町田村、住吉村、旭村、大綱村を中心とする橘樹郡の連携の復活であり、多摩川の直轄事業化に向けての新たな連携のスタートです。

本稿に記載された文書等は、著者和田一範氏が神奈川県立公文書館の飯田家文書から見出して、はじめて一般に紹介したものです。興味のある方は、和田一範：多摩川近代改修の夜明け前—平間の渡し下流の攻防(その1)(その2)—,2019年10月12日,水利科学 No.369(第63巻第4号)同No.370(第63巻第5号)の詳報をご参照ください。

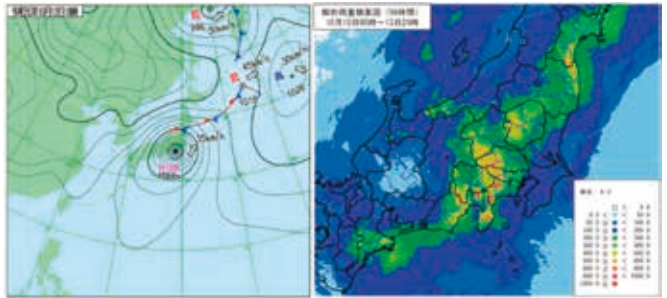


# 「多摩川緊急治水対策プロジェクト」について

## 1. 令和元年東日本台風について

令和元年東日本台風（台風第19号）は、令和元年10月12日に上陸した後、関東地方を通過し、多摩川流域においても広範囲において強い雨域がかかり、山梨県、東京都、神奈川県を中心に大雨となりました。多摩川の上流域にある雨量観測所では、観測を開始してから過去最高の雨量を観測しました。

本川下流部の田園調布（上）と中流部の石原、支川浅川の浅川橋の水位観測所において、計画高水位を超過する洪水となりました。



出典：気象庁 HP

## 2. 多摩川緊急治水対策プロジェクト

令和元年東日本台風において、甚大な被害が発生した多摩川流域における今後の治水対策の取組として、国、都、県及び多摩川流域の市区等が連携し、社会経済被害の最小化を目指すために「多摩川緊急治水対策プロジェクト」を取りまとめました。



このプロジェクトは、3つの柱から構成されており、①「河川における対策」として、河道の土砂掘削・樹木伐採による水位低減、横断工作物（堰）の改築、堤防整備を行い、②「流域における対策」として、下水道樋管等のゲート自動化・遠隔化や浸透ます等の流出抑制施設の整備等を自治体等が主体となって浸水被害軽減対策について検討し取り組みを推進し、③「ソフト対策」として、講習会等によるマイタイムラインの普及促進や自治体職員対象の排水ポンプ車運転講習会の実施などで、円滑な水防活動・避難行動のための体制の充実を図ります。これら3つの柱を推進することで、被害の最小化を目指します。

多摩川緊急治水対策プロジェクト ～首都東京への溢水防止及び沿川・流域治水対策の推進～



### 京浜河川事務所ではFacebookを公開しています！

京浜河川事務所の取り組みや 所管する多摩川、鶴見川、相模川、西湘海岸、沖ノ鳥島に関する情報を、みなさんに分かりやすく情報発信していきます

<https://www.facebook.com/keihin.river.mlit/>





## インフォメ／多摩川

多摩川流域他の各種団体等の6月から9月に開催される環境活動に関する主な行事・イベント情報を紹介いたします。

自然災害や感染症拡大防止、その他やむをえない事情により  
中止・延期または内容が変更となる場合があります。  
各団体のホームページ等で、必ず事前にご確認をお願いいたします。

## 美しい多摩川フォーラム

- 第48回調布市環境フェアに出展 (6月6日(土):調布市役所)
- 第13回多摩川一斉水質調査実施 (6月7日(日):青梅信用金庫本店)
- 狛江古代カップ第30回多摩川いかだレース参加 (7月12日(日):狛江市)
- 第12回炭焼き体験と水辺の交流会開催 (8月19日(水):青梅市)
- 「多摩の物語」の語り (9月13日(日):府中市市民活動センター プラッツ「バルトホール」)
- 多摩川“水”大学講座開催 (9月18日(金):昭島市公民館)

### お問い合わせ先

美しい多摩川フォーラム事務局 (青梅信用金庫 地域貢献部内)

担当: 及川 / 鈴木 / 木村

TEL 0428-24-5632 FAX 0428-24-4650

E-mail forum@tama-river.jp URL <http://tama-river.jp>

## 一般財団法人 世田谷トラストまちづくり

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5月末までの財団主催イベントを中止、およびビジターセンターなど財団管理施設の利用を休止しています。再開状況等は、財団ホームページを確認または下記へお問い合わせください。

### ●世田谷トラストまちづくりビジターセンター /世田谷区成城 4-29-1 (野川沿い)

自然環境および歴史的文化的遺産の保全を進めるトラスト運動やまちづくりの情報発信とボランティア活動の拠点です。自然をテーマに、周辺情報の発信・案内、季節ごとの自然の楽しみ方を紹介する展示、定期的にミニイベントなどを開催しています。

- \* 「身近な自然と触れ合うミニイベント」 毎月上旬の日曜 (要申込)
- \* 「みどりの上映会」 毎週土曜日 午前10時～正午、午後1時30分～3時30分 (随時)
- \* 自然・建築史・まちづくりに関する図書 5,000冊以上。絵本、紙芝居もあります。
- \* 財団発行の書籍・オリジナルグッズ、「世田谷みやげ」の手作りお菓子の販売

### ■申込・お問い合わせ先

(一財) 世田谷トラストまちづくり トラストみどり課

TEL 03-6379-1624 FAX 03-6379-4233

〒156-0043 世田谷区松原 6-3-5 財団 HP <http://www.setagayatm.or.jp/>

## むさしの化石塾 多摩川で化石から学ぶ環境学習です。

### 「むさしの化石塾」ではどんなことをするのか？

地域市民を対象に、多摩川で豊富に産出する化石から学ぶ環境学習を行っています。  
 むさしの化石塾は、化石を教材にした調べ学習を行う生涯学習教室です。  
 発見した化石の調べ学習を通して、学術研究を行う場合があります。  
 学会発表や論文記載、発見化石の博物館への貸与や寄贈も行っています。  
 是非お気軽にお問い合わせください。

### 多摩川の化石について

多摩川は第四紀学の材料の宝庫です。  
 その理由は多摩川の川底では、削られるたびに第四紀層の地層の中から次々と化石が出現するからです。  
 陸に住む化石では、アケボノゾウ（動物化石）やメタセコイア（植物化石）などが見つかります。  
 海の新生物では海生哺乳類や貝化石が見つかります。  
 過去に生きていた古生物の証が流失する前に、未然に採取して教材として生かすことを目的としています。

■新型コロナウイルスの影響に鑑み7月までは「むさしの化石塾」室内作業及び野外体験会などの活動は行いません。

8月からイベントを再開いたします。

### 8月 ワークショップ「学ぶとできる」のお知らせ

テーマ「多摩川の化石標本のレプリカ模型作成で学ぶ生物の形の神秘と謎」

開催日時：8月22日（土）14-16時【2時間】

開催場所：武蔵村山市ボランティア・市民活動センター 2F

参加希望連絡先：

※開催日1週間前までメール ([Email: mkj@sweet.ocn.ne.jp](mailto:mkj@sweet.ocn.ne.jp)) にて、参加者の連絡先、氏名、年齢、性別、希望など記入の上、申し込み願います。

※参加費：1,000円（教材込み）



### ■化石採集会（オプション）不定期開催（お楽しみに）

7月以降に実施を予定しています。

2019年の台風19号の通過によって刻まれた上総層群をご案内します。

※参加費：3,000円（資料代・レク保険加入込み）

● twitter「むさしの化石塾」で、活動の最新情報をご覧ください。

[https://twitter.com/musasino\\_fossil](https://twitter.com/musasino_fossil)



### ■今後の予定

むさしの化石塾室内イベントは、今後昭島市の教育福祉総合センター「アキシマエンス」の郷土資料室等で室内作業を実施する予定であります。

詳しい内容が決まり次第ご案内申し上げます。お楽しみに。

★むさしの化石塾に興味のある方は、

氏名・住所・年齢・連絡先・質問事項など参加希望等の理由を明記の上、郵送にてお願いします。

### ■お問い合わせ先

GeoWonder 企画 むさしの化石塾 〒208-0003 東京都武蔵村山市中央3-20-7 MKJ 事務所  
 むさしの化石館 042-567-1095 (FAX) むさしの化石塾 代表 福嶋 徹 090-1769-8020

## NPO 法人 砧・多摩川あそび村

子どもたちに豊かな自然体験と安心できる居場所を

### ■ 「きぬたまあそび村」

広い空の下、多摩川の風・水・火・土を肌で感じてのびのび遊べる自然体験遊び場です。「多摩川水系河川整備計画」をきっかけに遊び場をつくり、世田谷区の委託事業として運営しています。プレーワーカーと呼ばれる遊び場スタッフが常駐し、「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに子どもたちの活動支援と原っぱの維持管理をしています。原っぱではたくさんの生きものとの出会いがあり、遊べる自然の楽しさを満喫できる貴重な場となっています。



のんびり遊べる自然の中の居場所



大人気のべっこうあめづくり



パパも地域の子どもたちを見守る

日 時：毎週 4 日 月・水・金・土 10 時 30 分～17 時

場 所：多摩川河川敷二子緑地せたがや水辺の楽校はらっぱ

アクセス：東急田園都市線・大井町線「二子玉川駅」徒歩 20 分

東急バス 砧本村行き

バス停：都市大グラウンド前下車 1 分

成城学園前駅行き バス停：砧南中学校前下車 4 分

5 月 30 日（土）まで休園しています。開園状況はきぬたまあそび村ブログでお伝えします。



多摩川を体で感じる川流れ体験



みんなで協力してのガサガサ

安全も学びながらの川遊び。  
川流れやシュノーケリング  
ガサガサなど夏のお楽しみです。

Instagramで多摩川の自然や絵本、  
工作やからだあそびなどの紹介をしています。  
見てみてください！



詳細はブログなどに UP します。下記にてご確認下さい。

### ■ お問い合わせ先

NPO 法人 砧・多摩川あそび村

〒157-0077 世田谷区鎌田 1-19-101 きぬたまの家

TEL 03-6447-9931

MAIL [info@kinutama.com](mailto:info@kinutama.com) HP <https://kinutama.com/>

ブログ <http://asobimura.exblog.jp/>



きぬたまあそび村

## NPO 法人多摩川エコミュージアム

(今号は、イベント開催が出来ませんので私たちの活動をご紹介します！)

1997年に行政と協働で定めたのが「多摩川エコミュージアム構想」です。

1999年に二ヶ領せせらぎ館が開館され、昨年20年目を迎えると同時に

8月には来館者数が50万人に達成しました。

JR南武線/小田急線登戸駅から徒歩8分の二ヶ領せせらぎ館を拠点として活動しています。

幼児から社会人までの環境学習、毎月の多摩川クリーンアップ、リトミック教室、

春・秋の野草観察会などを開催しています。

また、四季を通じて下記の様な楽しいイベントも開催しています。



春

桜のコンサート



夏

ラフティングボート乗船体験会



二ヶ領せせらぎ館



秋

秋の多摩川まつり



冬

凧づくり・お正月あそび

この新型コロナウイルスの状況が1日も早く収束して、皆様が二ヶ領せせらぎ館に遊びに来てくださるのを多摩川エコミュージアムスタッフ一同楽しみにお待ちしております。笑顔で再会しましょう！

### ■お問い合わせ先

二ヶ領せせらぎ館 (にかりょうせせらぎかん)

【JR南武線/小田急線登戸駅下車徒歩8分】

TEL/FAX: 044-900-8386 URL: <http://www.seseragikan.com/>

住所: 神奈川県川崎市多摩区宿河原 1-5-1

開館時間: 10:00 ~ 16:00 5月~8月 土日祝は 9:00 ~ 16:00

休館日: 毎週月曜日(祝日の場合はその翌日) 及び第一・第三水曜日



## せたがや水辺の楽校

「せたがや水辺の楽校だより 44号」に掲載しているイベントは、4月30日現在、いったんお休みにしています。活動再開については「せたがや水辺の楽校ブログ」に掲載します。

以下の予定についても同様となりますのでご了承ください。

▶ せたがや水辺の楽校ブログ・・・URL : <https://semizube.exblog.jp/>



### ■ あそびの日 (第1日曜日 10時～12時)

野川で水辺ガサガサをして水生生物を捕まえて観察をします。  
インタープリターみきちゃんの解説つき。

集合受付場所：せたがや水辺の楽校原っぱ  
(開催場所の野川ベース(二子玉川駅近く)でも受付)

2020年6月7日(日)・7月5日(日)・8月2日(日)・  
9月6日(日)



### ■ かわあそびの家 (第3日曜日 10時～15時)

※最終受付 14時

野川ベースで、かわあそびに必要なライフジャケット、  
たも網の貸し出しをします。

2020年6月21日(日)・7月19日(日)・8月16日(日)

### お知らせ

「せたがや水辺の楽校」は2006年に開校しました。開校前の準備会から開校、開催運営、NPOの設立と、15年以上のあいだ中心になって活動を支えてくださった中西修一さんが、2020年3月16日急逝されました。死因は、大動脈乖離・心筋梗塞で、大変急なことでしたが、最期はご家族に看取られて安らかに旅立たれたと聞いております。

日本中の河川を知り尽くし、私たち、子どもたちに「川を見ればまちがわかる。自然と人はつながっている」ことを教えてくれた方でした。流域のみなさまには、お知らせが遅くなってしまいました。財団だより編集部さんのご厚意により、この場を借りてご報告させていただきます。

「せたがや水辺の楽校」は中西さんの遺志を心に、これからも、真摯に活動してまいります。

ひきつづき、みなさまのお力添え、どうぞよろしくお願いいたします。

2020年4月30日 せたがや水辺の楽校事務局 村上ゆか



(写真提供：小林直子)

### ■ お問い合わせ先

NPO 法人せたがや水辺デザインネットワーク

Mail [info@mizubedesign.org](mailto:info@mizubedesign.org) TEL 080-3007-5413 (村上)

HP <https://mizubedesign.org>

ブログ <https://semizube.exblog.jp/>

FB : <https://www.facebook.com/mizubedesign/>



～～多摩川と崖線の森の街で 一人ひとりが大切にされる毎日を～～

## 1 新規 学術研究

No.	研究課題	代表研究者	所属	研究期間
1	多摩川河川敷におけるテントウムシ類の季節的動態およびエサ資源生物の分布とそれらに関わる緑地の重要性	南 佳典	玉川大学 農学部 教授	2年
2	多摩川河口域の微生物資源、希少放線菌の多様性保全および新種の分離に向けた取り組み	寺原 猛	東京海洋大学 海洋生物資源学部門 助教	2年
3	2019-2020年の調査を通じた台風19号による多摩川の礫河原再生が河川敷の粒径組成、植生、陸生の昆虫に及ぼした影響評価	柳川 亜季	明星大学 理工学部 助教	1年
4	環境保全型農法による土壌微生物群集が多摩川梨の品質と収量に与える土壌の好条件の解明	甲斐 貴光	明治大学 黒川農場 特任講師	1年
5	江戸時代多摩川の生態系と鷹場	山崎 久登	東京都立砂川高等学校 通信制課程・教諭	2年
6	レーザーสキャナを用いた多摩川流域上総層群化石群の3次元構造データ保存法の確立	中島 保寿	東京都市大学 知識工学部自然科学科 准教授	2年
7	多摩川流域に生息する水生植物から分離した糸状菌を用いた抗冷水病活性物質の探索	酒井 一成	北里大学北里生命科学研究所 微生物 資源研究センター特別研究員	2年
8	河川攪乱後に出現する先駆種の標本所蔵体制の強化に関する研究 -実施プロセスにおける教育的効果の検討もふまえて-	佐藤 友香	東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 医歯学 系専攻 環境社会医歯学講座 医療政策情報学分野 博士課程	2年
9	多摩川流域中の窒素・りんの定点分析と植物肥料としての有効利用技術の開発	渡邊 雄二郎	法政大学 生命科学部 准教授	2年
合 計 (9件)				

## 2 新規 一般研究

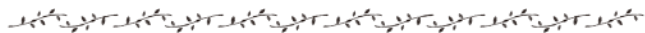
No.	研究課題	代表研究者	所属	研究期間
1	魚類(オイカワなど)をマーカーとした水再処理センターの排水の影響を受けない多摩川中上流域におけるマイクロプラスチック汚染調査	伊藤 教行	特定非営利活動法人 R.I.La 理事 主任研究員	2年
2	コシアカツバメ( <i>Hirundo daurica</i> )が多摩川河川敷に分散・拡大した動向と現状を通して多摩川中・下流域の環境および都市化と農耕地の変遷を探索	苗川 博史	東京農業大学 客員教授	2年
3	台風19号による大増水で全滅した多摩川の河原植物が自然再生するかについての調査・研究	柴田 隆行	多摩川の自然を守る会 代表	2年
4	多摩川水系における希少性コウモリ類の生息を探索	井上 太志	自然観察活動チーム Wild Lives Watchers 代表	2年
5	浅川流域の陸水学的研究	角田 清美	青梅市教育委員会 青梅市文化財保護指導員	1年
6	令和元年10月台風第19号による攪乱後の多摩川水系における鳥類の生息状況及び生態の変化に関する調査研究	渡辺 仁	特定非営利活動法人 東京生物多様性センター 代表理事	2年
7	多摩川上流域のリター堆積における食物網構造とその決定要因の解明	太刀掛 脩平	東京大学大学院農学生命科学研究科森林 科学専攻森林動物学研究室 修士課程	2年
8	都市農業評価のための食料・水・エネルギーネクサスマデリング 多摩川流域を対象として	岸本 慧大	慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科修士課程	2年
合 計 (8件)				

### 3 継続 学術研究

No.	研究課題	代表研究者	所属	研究期間
1	多摩川流域における水中微細マイクロプラスチック存在調査とシミュレーションモデルを用いた流域内挙動解析	亀田 豊	千葉工業大学 創造工学部 准教授	2年
2	巨大都市を流れる多摩川流域で薬剤耐性遺伝子を伝播しうるプラスチックの同定とその伝播経路の解明	新谷 政己	静岡大学 工学部 准教授	2年
3	多摩川の流域周辺に生息するワカケホンセイインコ ( <i>Psittacula krameri manillensis</i> ) など、野生化した飼鳥から人に感染する病原体の調査	佐々 悠木子	東京農工大学農学研究院 講師	2年
4	多摩川流域のドジョウ類の分布と生息環境, 及びヒガシマドジョウの 河川内での季節移動と環境利用	吉川 朋子	玉川大学 農学部 生産農学科 教授	2年
5	多摩川上流域に侵住した大型珪藻外来種の生息状況とその対策に関する研究	田中 正明	四日市大学生物学研究所 所長	2年
6	多摩川水系におけるセミの抜け殻を利用した土壌中元素分布の広域調査	大貫 敏彦	東京工業大学 先導原子力研究所 教授	2年
7	多摩川底質の亜酸化窒素消費ポテンシャルの体系的評価: 排水処理施設からの放流水の影響	寺田 昭彦	東京農工大学 大学院工学研究院 教授	2年
8	水の循環と子どもの遊びからみる自然と社会とのつながりとその価値について—多摩川流域の自然環境保全に向けた流域連携の可能性に向けて	土肥 真人	一般財団法人エコロジカル・デモクラシー財団 代表理事	2年
9	多摩川におけるマイクロプラスチック汚染状況と魚類への影響	二瓶 泰雄	東京理科大学 理工学部土木工学科 教授	2年
10	多摩川の遺伝資源: 固有の魚類個体群とその生態	吉永 龍起	北里大学 海洋生命科学部 准教授	2年
合 計 (10件)				

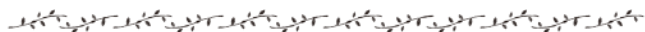
### 4 継続 一般研究

No.	研究課題	代表研究者	所属	研究期間
1	多摩川鳥類カウント再現	蓮尾 純子	多摩川鳥類カウントグループ 会長	2年
2	プラスチック製産卵誘致容器の活用によるトンボ類の保護・増殖	久保田 繁男	特定非営利活動法人横沢入里山管理市民協議会 理事長	2年
合 計 (2件)				
総 合 計 (29件)				



## 東急財団

# 社会貢献環境学術賞について



この賞は、日本の環境保全、環境科学、環境技術などの分野において、学術的、社会的に、特に顕著な業績を挙げられた研究者の方を顕彰するものであります。

今日、私たちを取り巻く「環境」は、地球規模で極めて重要な問題を抱えております。地球温暖化の加速をはじめ自然環境破壊、エネルギー、生物多様性、廃棄物等々、さまざまな分野で問題が表面化しつつあります。そして、それらの改善・解決が実現するかは、ひとえに人類の英知と実行力にかかっていると云えます。

環境関連の問題は、さまざまな原因が複合的に関連して発生しており、その解決方法を探るためには、高度な科学的知見に基づく調査・研究が欠かせません。また、それを実行に移すためには、研究のみならず、行政、市民等、社会の幅広い層を巻き込んだ、具体的な活動が不可欠であります。

当財団では、このような研究・活動に尽力された方々を顕彰することによって、かけがえのない地球環境の改善の一助としてまいりたいと考えております。

皆様におかれましては、この趣旨をご理解いただき、なにとぞご推薦を賜りますようお願い申し上げます。

### これまでの受賞者

第1回 2009	鈴木 基之 (すずき もとゆき) 1941~	国際連合大学 特別学術顧問 放送大学 教授 環境省中央環境審議会 会長
-------------	------------------------------	---

環境技術開発、環境のモデル化、バイオアッセイ（生物検定法）などを研究対象領域とし、特に、「ゼロエミッション」と持続可能な社会の実現に向けた研究に従事されました。また、研究の推進にあたり、文部省科学研究費重点領域代表、特定領域研究代表、学術審議会企画部会専門委員など各代表、委員ならびに環境省中央環境審議会会長を歴任され、長年にわたり環境科学、環境技術へ学術的な貢献、環境行政推進へ多大な寄与をされました。

第2回 2010	亀山 章 (かめやま あきら) 1943~	東京農工大学 名誉教授
-------------	-----------------------------	-------------

自然保護と緑地保全の分野において、生物多様性の保全に関する基礎的研究とそれを応用した技術の開発に一貫して取り組んでこられ、長年の環境科学、環境技術並びに環境行政推進に多大な貢献をされました。

第3回 2011	奥富 清 (おくとみ きよし) 1928~2015	東京農工大学 名誉教授 日本自然保護協会顧問
-------------	---------------------------------	---------------------------

我が国を代表する植生学、植生管理学の創始者として、植生連続体解析の提案および植生調査法の確立等を通じて、生態系の適切な保護管理に有益な研究成果を残されました。また、里山、レクリエーション地、埋立地、高速道路などを対象に植生を基盤とする自然環境の管理や共生に関する数多くの研究成果を発表され、その成果は、国レベル、自治体レベルの行政資料としてはもちろん、事業者、市民、専門家など多くの方々の指導指針として有益な資料となっております。

第4回 2012	原科 幸彦 (はらしな さちひこ) 1946~	千葉商科大学 政策情報学部 教授 東京工業大学 名誉教授
-------------	-------------------------------	---------------------------------

環境アセスメント研究の第一人者として、既に1970年代後半に、討論型世論調査の実証研究を行うとともに「意味ある応答」の重要性を説き、その方法論開発を行ってこられました。

また、環境影響評価法の策定では、特に方法書段階の新設に貢献するとともに、学会発表、著書、放送大学での講義、マスコミなどを通じ、普及啓発に努められました。また、「戦略的環境アセスメント」の普及啓発にも努め、我が国への導入に貢献してこられました。このほか、国際機関等における指導助言により、環境社会配慮ガイドラインづくりにも尽力されました。

第5回 2013	宮本 憲一 (みやもと けんいち) 1930~	大阪市立大学 名誉教授 滋賀大学 元学長
-------------	-------------------------------	-------------------------

1960年代の初頭から、深刻な社会問題となりつつあった公害・環境問題の調査研究にいち早く取り組みました。特に、環境政治経済学、環境経済学の理論が、公害被害者の救済、公害防止、そして環境保全のための実践理論となることを一貫して目指してこられ、そのために、多くの公害被害地域の訪問、工業地域や開発予定地域の調査をふまえ、問題解決に向けての提言をされました。また、研究者間の学際的協働のための研究組織をつくり、その実現と政策化のための努力をしてこられました。

第6回 2014	吉野 正敏 (よしの まさとし) 1928~2017	筑波大学 名誉教授
-------------	----------------------------------	-----------

我が国における気候学、特にその歴史的研究や気候影響の調査に関する第一人者であり、地球温暖化等の地球環境問題についても指導的立場で研究を進められ、国際的にも高く評価されております。また、その成果は農業、健康・疾病などにも広がりを見せております。



<b>第7回</b> 2015	<b>榎根 勇</b> (かやね いさむ) 1932~	筑波大学 名誉教授
--------------------	-----------------------------------	-----------

我が国における、「水循環」学の第一人者であり、政府や自治体の審議会等を通し、環境行政の推進に大きな功績を残す一方、教育の分野においても多くの人材を育成してこられました。また専門分野の枠を超え、環境問題の根本にかかわる文化の問題などにも取り組み、環境科学の発展に大きく寄与されました。

<b>第8回</b> 2016	<b>小倉 紀雄</b> (おくら のりお) 1940~	東京農工大学 名誉教授
--------------------	------------------------------------	-------------

我が国における「陸水学」の第一人者であり、環境省越境大気汚染・酸性雨対策検討委員会・国土交通省河川生態委員会の委員を永年務めてこられるとともに、政府や自治体の審議会等を通し、環境行政の推進に大きな功績を残す一方、教育の分野においても水の環境に関して学ぶ多くの学生、研究者にとって基本的な教科書を作成し人材を育成し、環境保全や市民環境科学に対して多大な貢献を行ってこられました。

<b>第9回</b> 2017	<b>倉本 宣</b> (くらもと のぼる) 1955~	明治大学 農学部 教授
--------------------	------------------------------------	-------------

一貫して「市民のための科学」を基本として活動され、市民・行政・研究者の協働による植生管理などに精力的に取り組んでこられました。

<b>第10回</b> 2018	<b>高橋 裕</b> (たかはし ゆたか) 1927~	東京大学名誉教授 日仏工業技術会名誉会長
---------------------	------------------------------------	-------------------------

日本の工学者。専攻は河川工学であり、「水」に関する国際的な権威。従前の河川管理の方法を革新し、災害の軽減と環境の保全に貢献されました。水害等にかかわる数多くの現地調査と綿密なデータ解析から「水害対策には河川改修だけでなく、流域管理や健全な水循環の維持が重要である」という、いわゆる「総合治水対策」の考え方を提唱し続けてこられました。その理論を取り入れた施策は全国各地で展開され、水害軽減に多大な効果をもたらしました。

<b>第11回</b> 2019	<b>大澤 雅彦</b> (おおさわ まさひこ) 1946~	中国雲南大学 特別名誉教授 公益財団法人 自然保護助成基金 理事
---------------------	--------------------------------------	-------------------------------------

植生を中心とした自然環境と人間社会との関わりを研究のテーマとし、日本国内はもとより、ヒマラヤ、中国、東南アジア等で植物の分布調査を行いました。その知見は、2001年に始まった国連ミレニアム生態系評価(MA)プロジェクトの最終報告書「第24章 山岳システム」にも引用され世界の生態系サービスとその将来予測の基礎となっています。また、小笠原諸島、屋久島、白神山地などについて、その価値を海外に発信され、世界遺産指定への道筋をつけられたほか、多数の官公庁において環境関連の委員等を歴任され、自然環境や生物多様性の保全に大きく貢献されました。

## 顕彰制度の概要

【推薦期間】 毎年4月～8月末(毎年1回)

【推薦方法】 推薦状および参考資料の財団への提出

【選考方法】 当財団の選考委員会による書面選考を経て決定

選考結果は、10月にご推薦者宛にお知らせいたします。

【顕彰内容】 賞金(100万円)

【その他】 11月に贈呈式および記念講演を開催(東京都内)

当財団公式ウェブサイトおよび財団機関誌にて公開します。

## ご推薦要領

### 推薦対象者の条件

下記のすべての条件に該当する研究者(個人・共同・団体)

- ・学識経験者であること
- ・社会に対し働きかけた顕著な実績があること

(例) 教育・普及活動

行政施策への貢献

実践活動

- ・環境に関する学術上(環境科学、環境保全、環境技術等)、顕著な業績を収めていること

(例) 調査・研究

発明・発見

技術の向上

理論・手法等の体系化

### 推薦方法

- ・所定の推薦書用紙に内容をもれなくご記入いただき、財団事務局宛ご提出ください。
- ・推薦条件に該当することを示す資料(論文や活動の成果物)を添付してください。なお、インターネットで公開されているものについては、参照先のURL記載をもって代えることができます。
- ・所定の推薦書用紙は、当財団公式サイトからダウンロードすることができます。また、電子メールによる推薦書提出もできます。
- ・推薦対象者は、貴団体の所属メンバーである必要はありません。
- ・貴団体としての、推薦者の集約や代表者の決裁等は必要ありません。ご所属メンバーによる個人的な推薦で構いません。
- ・複数人を推薦することも可能です。この場合は、対象者ごとに別々の推薦書をお書きください。

### 締 切

2020年8月31日(月)

※推薦者および候補者に関する個人情報、選考および顕彰に必要な範囲内でのみ使用いたします。

※ご不明の点は、財団事務局までお問合せください。

### 連絡先(事務局)

〒150-8511 東京都渋谷区南平台町5番6号

TEL 03-3477-6301 / FAX 03-3496-2965

公式ウェブサイト <https://foundation.tokyu.co.jp/>

Email: env@tkk.tokyu.co.jp

読者コーナー



新しい副読本「ようこそ多摩川へ」が届きました。

内容見ました。いいですね。

東急電車がさりげなく・・・

多摩エコとしては、環境学習で来館生徒へ、37ページの粕江水害の写真は貴重です。

こどもたちは川の怖さを知り、今のニヶ領宿河原堰の構造となった背景を理解するのに良きテキストとなりますので、特に使えます。

ありがとうございました。

多摩川エコミュージアム 五十嵐

★多摩川散歩にご寄稿頂いている NPO 法人多摩源流こすげ事務局から  
お願いが届いています。ご協力をお願いします。

源流体験用の大人の靴下募集！

子どもたちが、滑り止めのために靴の上から履く「男性大人用の靴下」を募集しております。

ご家庭で使い古した靴下がありましたら、洗濯の上、当法人までご郵送頂けると幸いです。

多くの子どもたちへ源流体験の楽しさ、素晴らしさをお届けする為に、ご協力をお願いします。

送付先は下記のとおりです。

〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 1911

NPO 法人多摩源流こすげ 源流体験担当宛



読者コーナーでは、「財団だより多摩川」へのご意見・又は流域のイベントの紹介、多摩川でみかけたものなど楽しいおたよりや情報をお待ちしております。

公益財団法人 東急財団 環境部宛に MAIL でお送りください。

▶メール宛先

[env@tkk.tokyu.co.jp](mailto:env@tkk.tokyu.co.jp)

## 事務局より

昨年の水害の傷も癒えないうちに、今度は感染症の拡大…。自然界の中では、人間はほんとうに小さな存在であると思い知らされます。前号から始まったばかりの新連載も、今回はやむなく休載させていただきました。それでも多摩川はとどまることなく、山から街へ、そして海へと流れ続けています。私たちが、心おきなく川に親しみ、川とともに楽しめる日々が、また戻ってくることを祈ります。(Z)



新型コロナウイルス感染拡大防止、緊急事態宣言が出され在宅勤務での「財団だより多摩川 162号」の発行となりました。在宅勤務で、家庭での Wi-Fi 環境が不安定のなか原稿を下された皆様、イベント開催が出来ないので「活動紹介」の記事に変更して原稿を送って下さった皆様、掲載断りの丁寧な MAIL を下さった皆様…大変な状況下にご協力をいただき、本当にありがとうございました。

在宅勤務が出来ない印刷現場の方にも大変お世話になりました。朝晩の安否確認（出退勤確認）から始まる1週間もありました。制作に関わってくださったすべての皆様に心より御礼申し上げます。

1日も早くこの状況が収束することを願っております。(M)

- 発行日 2020年6月1日
- 編集兼発行 公益財団法人 東急財団 環境部  
〒150-8511  
東京都渋谷区南平台町5番6号  
TEL 03-3477-6301  
公式ウェブサイト：<https://foundation.tokyu.co.jp/>

